
寝起きのファジーな思いつき < 35歳独身女性の決断 >

きたこう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寝起きのファジーな思いつき <35歳独身女性の決断>

【Nコード】

N6827Y

【作者名】

きたこう

【あらすじ】

本当は、心の片隅でいつも思っていたこと。ずっと、自分に偽って気付かないふりをしていた。しかし、ある朝、寝起きの曖昧な思考の中で、本音が目覚めてしまった。

「このまま、老いて行くことに耐えられるのか」と言う疑問。

（前書き）

<年齢制限> 35歳以上独身女性の方は、くれぐれも危険ですの
で読まない様をお願いします。
異世界の女性の話です。

う、うそ、うそよ・・・。

いつの間にこんなに年を取ってしまったの？

そ、そんなはずない。

これはきつと夢、そう夢よ。

ま・ぼ・ろ・し〜！

でも、でも事実だったらどうしよう・・・。
なんか、事実の様な気がする。

拙い、それは拙いわ。

いや、いや、やめて〜。

そうだ・・・。

だったら、せ、せめて、約束された安らぎ、保証される幸せ、愛
の担保、e t c

欲しい、早く手に入れなきゃ。掴まなきゃ。

でなきゃ、これ以上歳なんか取れない！

私はとある平日の早朝、うつらうつらとした半眠の中、夢と現実
のフアジーな狭間で、ふと、そんな思考に捕らわれてしまったので
ある。

数分後、完全に目が覚めてしまえば何のことはない。全てが現実。

昨日の夜、寝る前までは全て受け止めていたことなのである。

しかし、私はその出来事で、改めて今自分の置かれた状況を痛感してしまっただのである。

私は、いつのまにか既に三十路という最初の壁を越え、あっという間にアラフォーへと向かう折り返しに至ってしまった。

次第に衰え行く艶、潤い、ハリ、その他諸々。いや、”次第に”何てそんな緩やかなものではない。最近、急激に衰えた気がする。

だから、本当は気付いていたのだ。自分の今の状況を。

老いに耐えていけるかと言う不安を、心のどこかで抱えていると言う事を・・・。

気付いていたのだけれど、見ない、見えない、気付かないふりをしていた。

きつと、もう一人の私が半眠状態に現れ、そんな逃げ腰の私に危機を教えてくれたのだと思う。

『このまま、なし崩しに老いることの危機を・・・』

そうだ。考えて見れば、遠ざかっていく優良な男達の群を、敢えて見なくて済むように自ら距離をおき、そのくせ偶に寄ってくる少しだけ（かなり）劣る男達を気前よくあしらっていたのだ。

（もちろん、横柄な態度をしたりはしないのだけれど・・・）

もし、仮に今、私が深夜にバーゲンセールを行った場合、どの位の男が私の体を乗り越えて行くのだろうか？

（絶対にしないが・・・）

男はいつでも女の体を欲している。

その女のカテゴリーに自分が入っているのだろうか？

そんなことも考えずに、あしらっていたのだ。

不安だ、不安だ、私のファン（不安）はいるのか！
って叫びたい。

本当に私はこの先の人生に敢然と立ちはだかる”老い”に一人で立ち向かっていくことが出来るのだろうか？
衰える美貌と、恋愛と疎遠になる中で生き抜くことが出来るのだろうか？

そんな不安に煽られて考えた。
ずっと、考えた。

仕事を休んで色々考えた。

自分の心に正直に。

そして、ある結論に達したのだ・・・！。

あかねかおる
赤根香 35 歳。 独身（未だ）。

顔だって、スタイルだって、それにセンスだってその辺の女には負けはしない。

確かに5年、いや6年か7年前まではそう思っていたはず……。

事実数年前までは、様々な誘いもあったし、友人からの紹介もあったのだ。

子供の頃なんて、「可愛い」「お人形さんみたい」って言われてたし、学生時代だって街を歩けば軟派もされたし、何処ぞのスカウトか分らないスカウトに狙われて大変だったのだ。

大丈夫、今ならまだ大丈夫！

私は決意した。

絶対に、絶対に……、

”結婚しよう”と。

本当は、もっと早く結婚しているはずだったのだ。

別に独身主義だった分けではないし、決して諦めた訳じゃなかった。

いい男、もつといい男、更に上へと欲を出している内に、いつしか疎縁になってしまったただけなのだ。

ちよつと、時の計算を間違っただけなのだ。

決して容姿に問題があった熟女こが売れ残っている訳ではないと言う事实に、知らず知らずの内、救いを求めていただけなのだ。

ああ、懐かしい、あの頃が懐かし過ぎる。

一体、奴らは、いつ私の前から消えて行ってしまったの？
今では私に寄って来る（と思われる）のは冴えない男達ばかりだ。
（いけない、正直になりすぎだ・・・）

こんなことなら、そこそこの男で妥協して、いえ、自分の意識を変えて早くに結婚するんだった。

今なら、全然ウエルカムなのにどうしてあの頃はあんなに面食いだっただろうかと思う。思い起こせば私はいつも後悔ばかりして来ている。

二十台の半ばには、二十歳前後に振った男の良さに気付き、三十路の頃には二十台半ばの頃に近づいて来た男で充分だった。

今なんかは、三十路の頃に告白された男で全然問題ないのに、なんであの時は彼で駄目だったのだろうか？今なら全然ウエルカムなのに・・・。

そうだ、そうなのだ。私はいつも過去を追いかけて後悔している。もう、過去を追いかけるの止めにしなければ、何処までも独り身で老いてしまう。

届かない過去を追いかけてはダメなのだ。

過去ではなく手の届く明日、未来を追いかけては。

そう？と言うことはだ。

今私に好意的な（と思われる）冴えない男達の中にも、5年後の私ならば受け入れられる人がいると言う法則が成り立つのである。

過去の統計はんせいからいくと、それはほぼ間違いないことなのである！

よし、そうだ！

こうなったら5年後の自分を想像してみよう。

妄想しろ、妄想、妄想、妄想だあかねかおる赤根香、五年後だ！

髪型？薄くたってそれとなく全体的にあればいいじゃん。

身長？170cm以上、ううん、私より1cmでも高ければいいわ。

160cmで充分よ。いや、もう一声、165cm。うん、それならきつとアラフォーの私ならノープロブレムよ。

収入？600万以上？ 私も働けば400万でもいいか。私も家庭に落ち着く気はないし、二人の収入を合わせれば充分じゃない。

顔？ この際、不快じゃなきゃいいわ。

よし、決めた。きつと5年後の私はこの辺で満足出来るはず。

後は、気持ちよ。ハートが一番大切なのよ！

*** と言うことで、私は出会いの集いに参加したのだった *
**

・・・そこには・・・

いるわいるわ、私の新しいラインに引っ掛かる男達が山ほど。

そうなのだ。ランクを落とせば、私だってまだまだ捨てたもんじやない。

私の周りは久々に見る好意的な数多あまたの男達。

でも、ここで勘違いをしてはダメ。
また同じことを繰り返してしまう。

私は初心表明の中からハート重視で最善の男をチョイスするんだ！
私は、もういい大人。外見ばかりに捉われたりはしないのだ！

と言う事で、私は見事、将来の担保を手に入れることに成功したのだった。

細い幸せが長く続ける為の担保を得たのである・・・。

*** そして5年後 ***

今、身長165cm、頭頂部に若干モヤが掛かった、小太りの男が私の前で朝食を取っている。

大した暑くもないのに、朝から汗を掻きながら飯を良く喰らう。

確かに、先月の給料は私よりも若干上回り、掃除くらいはしてくれるし、ゴミだって出してくれる。

毎日寄り道せずに帰って来るは、休日には料理もしれくれる。

何の問題があるのか？

そうなのだが……、物足りない。

何か物足りない？

正直、圧倒的に物足りない！

結局、5年経っても私は担保、いや旦那に満足することはないままなのだ。

もっといい男が私を待っていてくれたのではないかと後悔する毎日。

5年経って合った時の夫の写真を見ると、確かに今より痩せているし、髪の毛だって少しは多い。

この写真の夫であれば今なら満足できるかもしれない。気もする。

5年たてば、夫も5歳歳を重ねるのだ。私はそれを考慮していなかったのがこの結末……。

いや、そう思うのも自分への言い訳かもしれない。

正直きつと、5年前の夫でも満足しないんだろうなあと思う。

もう遅いんだ……。

人間なんて、ずっと絶対に追いつかない過去を追いかける生き物なのかもしれない。なんて思う。

結局、5年前に気付いた私は後手を踏んだのだろうか？

それとも先手を打った人たちも同じ後悔をしているのだろうか？

残念ながら、他人には嘘もつけるし、心なんて自己暗示にも掛かれば、同じ思いでも大小比較が不可能だから比べようがない。

何にしても、今となつてはこの上ない可愛い顔で、私をママと呼んでくれる3歳のわが子が唯一の希望だ。

きっと、この子が私の無念を・・・。

< 終わり >

(後書き)

きつと、怒られるだろうなあ・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6827y/>

寝起きのファジーな思いつき < 35歳独身女性の決断 >

2011年11月21日04時31分発行